武　一　中

令和７年 11 月 17 日
武蔵野市立第一中学校
学校だより R7－12 号

URL:https://dai1-jh.musashino-city.ed.jp/

魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教えよ

校　長　　中嶋　建一郎

皆さんは、「魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教えよ」という言葉を聞いたことがありますか。脳科学者の池谷裕二さんの本「すごい科学論文」に出てきたので、少し引用してみます。「『飢えている人に魚を与えれば一日で食べてしまい、それ限りだが、釣りの知識を与えれば一生食べてゆける』という意味です。たとえば、発展途上国の支援では持続可能性が重要です。この格言は、支援される国の発展と自立を促すうえで、何を重視して支援すべきかを指摘するものです。」

私は、この言葉と皆さんの勉強の関係を考えました。これから成長していく皆さんを支援するのには「魚の釣り方」を教え、「持続可能性」を考える必要があると。

例えば、数学の勉強なら、魚は「答え」、魚の釣り方は「解き方」と考えることができます。先生方は、初めに基本的な魚の釣り方を教えて、段々と変わった魚の釣り方を教えてくれます。どんな魚でも釣れる名人になれば、ずっと食べていけると思って教えてくれています。針の選び方や餌の付け方などの途中の式を重要に考えている理由もわかるでしょうか。

受け手側の皆さんが気を付けなければならないのが、「魚」だけを求めてしまうことだと思います。お腹が減っていれば、すぐに食べたい。それは分かります。でも、自分が少し努力すれば手に入ることをやらずに「魚」を求めてしまうと「釣り方」を覚えられません。大人も注意しなければいけませんが、生成 AI に文章を書かせることは、その一つかもしれません。

私は、数学に限らずすべての勉強が「魚の釣り方」だと思っています。勉強の仕方が分かれば、一生学び続けることができます。そうして身に付いた力が「世の中の変化に対応できる能力」になります。学校では９教科の勉強をしているので、９種類もあると釣り方がいろいろあって「難しすぎる！」という声も聞こえてきそうです。全部は難しいですね。その中から１つでも得意なものを見つけることを目指してください。この「釣り方」は面白そうだなというのが見つかるといいですね。

今、３年生の面接練習をしています。「高校に入ってやりたいことは何ですか」という質問に「英語を頑張りたいです」との答えがありました。「何か将来の職業に関連して理由があるのですか」と質問を重ねると「まだ将来何をやりたいかは決まっていませんが、英語が得意になると選択肢が広がると考えています」との答えでした。英語は、この人にとっての「魚の釣り方」で、将来を見越した持続可能性がある考えだなと思いました。

皆さんにとっての「魚の釣り方」は何にあたるでしょうか。

18 日（月）全校朝礼より

一中生ボランティア活動の報告

11月２日（日）　西公園なかよし祭りにて

★防災クイズ　　生徒会

★演　　奏　　吹奏楽部

★チラシ作成　　山崎葵　比留間知菜　藤田朝陽